

対象学年
高等学校3年

動きのある Webページを作ろう

～ 静止画による15秒CMの作成～

時間数
15時間



池田 明
大阪府大阪市立野町総合高校

使用ソフト&ハード

Adobe LiveMotion2.0
Adobe Photoshop Elements

使用した物

Live Motionの基本操作のマニュアル
作品の相互評価シート

身についたこと

視聴者を引き付ける効果的な表現とはどのようなものかを常に考えることができた
どのような情報を盛り込めば、15秒間で的確に視聴者に印象を与えることができるのかを工夫した
アニメーション作成ソフトの「タイムライン」の概念、各種データの形式、データ容量など、技術的な面での理解を深めた

実践概要

本校は総合学科で、多くの選択科目から生徒が自由に選んで履修する。この実践は、選択科目「インターネット」2単位で、4月から7月にかけて実施したもので、「動きのあるWebページを作成しよう」というのが目標。その第一段階として、15秒の簡易CMを作成することにした。今回は、あえて動画は使わず、写真やイラスト（地図などを含む）、キャッチコピーなどを効果的に組み合わせて、TV-CM風に仕上げることにした。

活動の流れ

1 ソフトウェア基本操作の習得（4時間）

この実践で使用する『Live Motion』を初めて使用する生徒が多いので、まず、練習として簡単なアニメーションの作成を行った。これで、操作のスキル習得とともに、タイムラインやアニメーション効果の概念を理解させた。

！ 操作については、一斉に説明して同じ操作をさせるのではなく、基本操作のリーフレットを配布して、これを見ながら自分のペースで進める形式にしました。

2 データ作成構想と素材の収集（3時間）

15秒のCMを作成するという目標を提示して、その構想を練らせた。ポイントは、「見た人に何らかのメッセージを確実に伝えること」とだけ指示。ある程度イメージができたなら、インターネットで検索したり、フリー素材集を利用したりして、使用する画像などのデータを収集。必要に応じて、画像データの修正や加工も行わせた。

！ 作品の対象者を意識するように仕向けました。これは、情報発信の際には大切な視点だと考えています。生徒たちは、最初はなかなかイメージがわからずに苦労していましたが、架空の商品やお店のコマースシャルメッセージを考えた者、意見広告のような内容にした者など、様々な構想が出てきました。

3 15秒簡易CMの作成（6時間）

各自が立てた構想に従って、実際の作品作りにかかる。だまかに画像を配置し、キャプションや効果を追加していくという流れで進めた。15秒という時間枠にどれだけのメッセージを込め、視聴者に印象を与えることができるのかがポイントとなる。

！ やはりタイムラインの扱いに苦労する生徒が多く見られました。写真やキャプションを配置するだけではなく、時間の概念を考える必要もあり難易度は高くなります。しっかりとCM構想やラフスケッチなどの下絵を書かせることが大切です。

4 相互評価（2時間）

データの完成後、共有サーバーに提出させる。次に、相互評価用のルーブリック形式のワークシートをサーバーから全員に配布し、各自で全員の作品を鑑賞して、相互評価をさせると共に、各作品にコメントをつけさせた。

！ 何らかの作品を作成する取り組みでは、相互評価と自己評価をさせることが重要です。特に留意しているのは、評価にもきちんとした説明とそれを行う時間を確実に確保しておくことです。

Information

- 「みんなで創る
デジタル表現コンテスト」
● 参加者募集！

D-project 2003のコンテスト企画、「みんなで創るデジタル表現コンテスト」の参加者を募集しています。このプロジェクトは、「子どもたちの「情報活用の実践力」を楽しく、気軽に、高めよう」をスローガンに実施しています。Q&Aコーナー等を設けるほか、コンテストに参加するにあたってのあらゆるお悩みごと、お困りごとにD-projectのコンテストメンバーが万全の態勢で臨みます。「情報教育ってなんだか難しそう」と感じ

ていらっしやる先生方も、このコンテストへの参加で最初の一步を踏み出してみませんか？

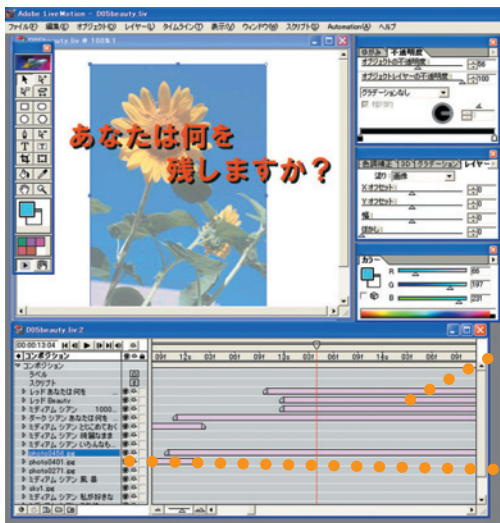
第1回デジカメ写真コンテスト

「 から見た 」 視点を変えて撮ろう！

概要：ふだん何気なく見ているものを、例えば「アリ」などの視点から見ることで、多面的な見方を体験するとともに、一枚の写真とキャッチコピーだけで、自分の思いを的確に表現します。Web投票システムにより、



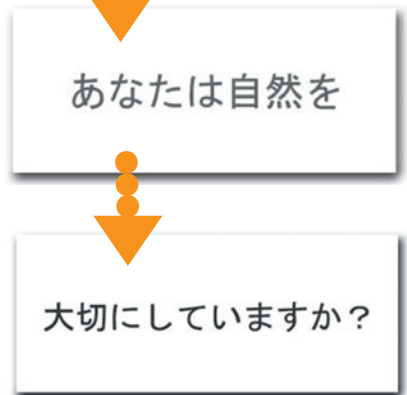
15秒静止画CMの生徒作品例



15秒でメッセージ入りの写真がホワイトフェードで順番に切り替わり、最後に視聴者に訴えかけるキャッチコピーで締めくくるCMです(ここでは3枚しか表示していませんが、実際は自然に関する7枚の写真がテンポ良く切り替わります)

これがタイムラインで、上記の目盛りが秒数を表し、ピンク色の部分がその素材を表示している期間を表しています

これが素材配置部分で、画像・イラスト・サウンド・文章などを配置します



短時間でいかに視聴者を意識した情報を発信できるか

TV-CMは、15秒という短時間で視聴者に強く印象を与える様々な工夫がなされていますが、この池田先生の実践では、TV-CMで使われるような表現方法を取り入れて、一人1作品の簡易CMを作成します。デザイン的なセンスも問われますし、発想の柔軟さも必要です。

15秒に込められた生徒らの思いを感じ取ることができるように、構想段階から深く関わり、一体何をどのようにアピールしたいのかを明確にしました。コンピュータは、これらの思いを実現し視覚に訴えるための1手段であり、構想段階で、使用する写真やイラスト図、キャッチコピーやキャプション、時間的なタイミングなどがうまくコーディネートされていることが決

め手となります。

また、このような実践は「自分の作品を仕上げること」に夢中になり、他人の作品を評価したり自分の作品を振り返ることがおろそかになりますが、本実践は評価活動にも十分時間を割き、本格的に取り入れたルーブリック評価も大きな特色です。

本実践に取り組んだ生徒たちは、CMの制作側に立つことで、実際のTV-CMの中に映像的な工夫、キャッチコピー、特殊効果などがふんだんに盛り込まれていることを理解したことでしよう。TV-CMの見方を変えることができた生徒も多勢いるはず。このような積み重ねが、「氾濫する情報に惑わされない・踊らされない賢い消費者」を育てることにつながるのです。



D-project 統括補佐
豊田充崇
和歌山大学教育学部附属
教育実践総合センター

他の人の作品を評価し、さらに自分の作品を振り返ります。

開催期間：9月25日～12月4日
(作品の応募締切は11月14日)
詳細とお申し込みは、
<http://2003.d-project.jp/contest/>
をご覧ください。

「マニュアル作成プロジェクト」
のマニュアル
掲載開始!

教育現場ですぐに使えるマニュアルを作成している「マニュアル作成プロジェクト」のマニュアル第一弾が、D-project 2003のWebに掲載されます。
授業実践マニュアル：授業実践がすぐに行えるように、その手順をわかりやすく解説
発想支援マニュアル：先生が新しい授業を創造したり、子どもたちが新しい表現を試したりすることができるための単機能マニュアルの2種類を作成しています。
まずは、<http://2003.d-project.jp/manual/> からダウンロードしてお使いいただき、感想をお寄せください。